

## 2. 公務員試験を知ろう！

ぶっちゃけ、  
勉強時間は？

いつから始めた？

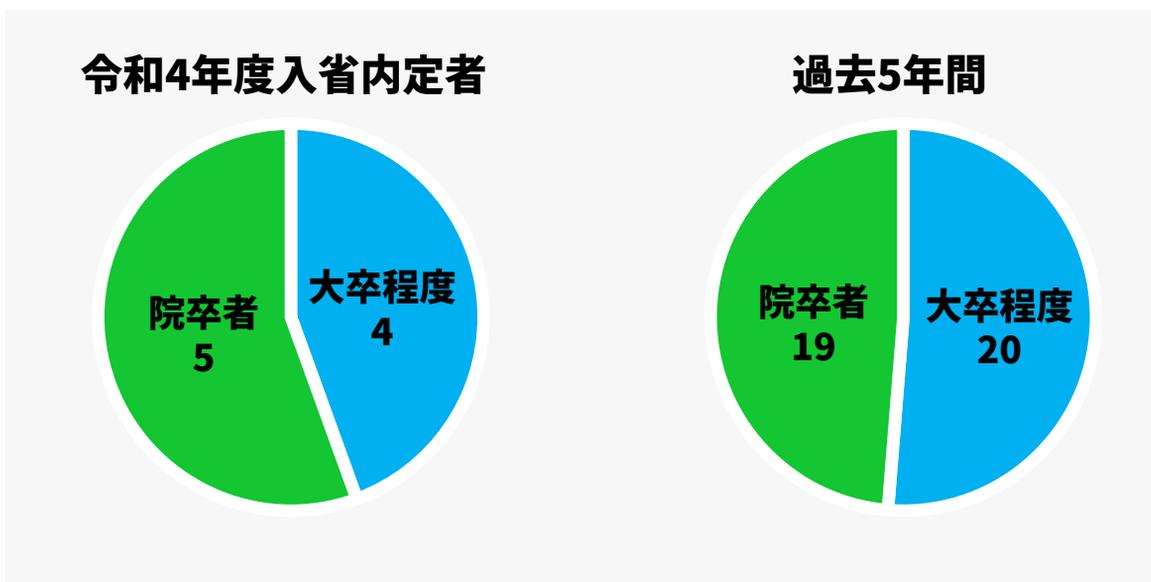


## 第2部．公務員試験を知ろう！

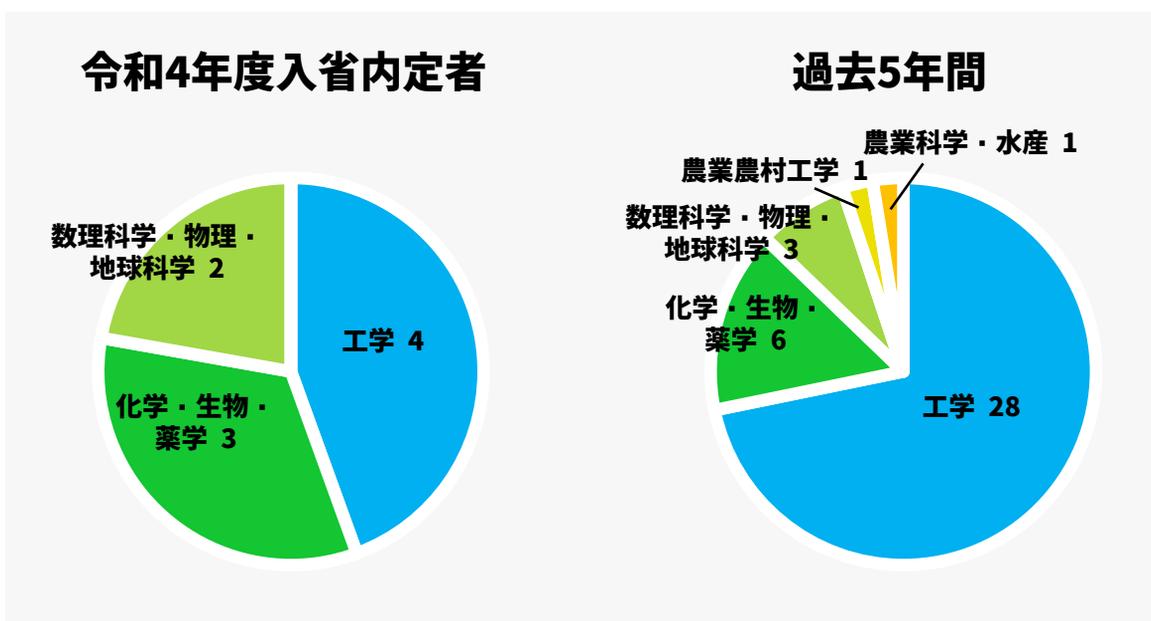
第2部では、内定者9名による国家公務員総合職試験の勉強・対策方法をお伝えします。なお、本冊子に記載している試験方法や内容は、令和4年度入省内定者が受けた試験について述べたものであり、次年度以降の試験とは異なる可能性があります。

また、第1部同様に内定者9人の体験談を紹介しています。勉強方法や勉強スケジュール等については、内定者個人の見解に過ぎない点をご了承下さい。あくまでも、本冊子は参考としてご覧いただければ幸いです！

### ■ 試験の種類 大卒程度/院卒者

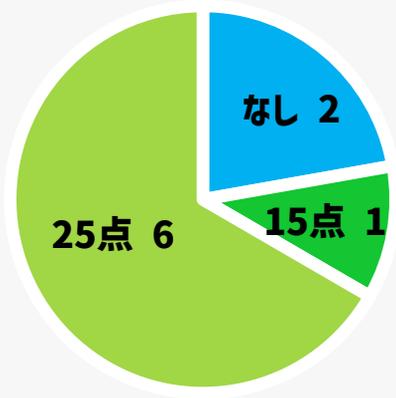


### ■ 試験区分

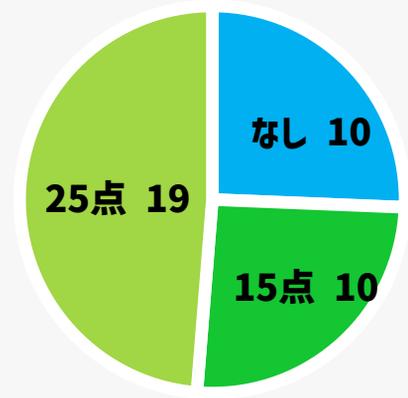


## 英語加点の有無

### 令和4年度入省内定者

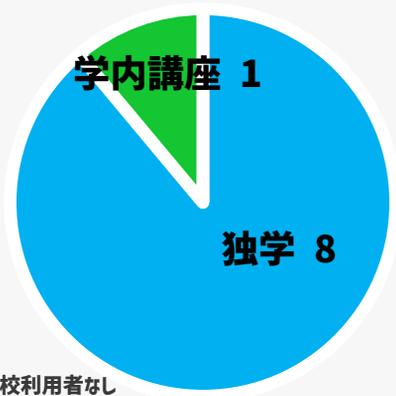


### 過去5年間

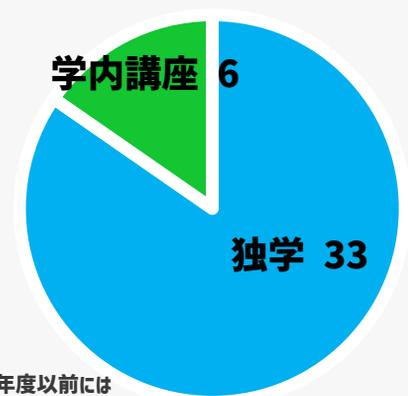


## 勉強方法

### 令和4年度入省内定者

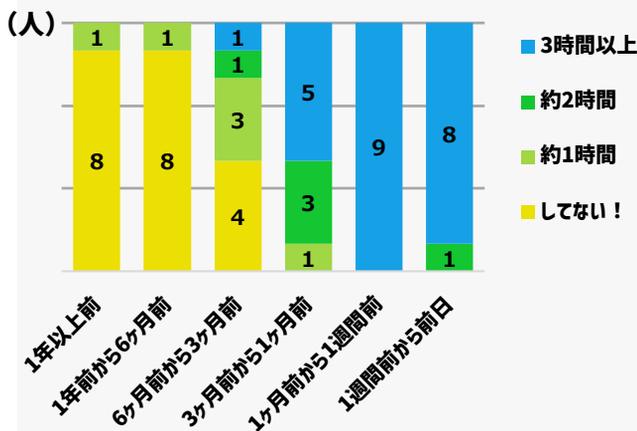


### 過去5年間

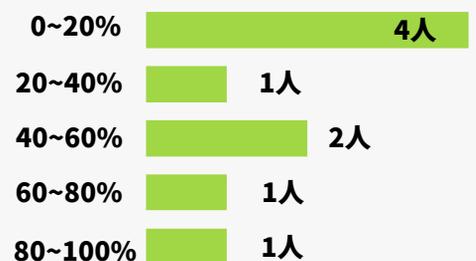


## 1次試験までの勉強時間と席次

### 時期別の勉強時間



### 席次 (上位~%)



## ■ 国家公務員総合職試験の概要

試験区分には、大卒程度試験と院卒者試験の2区分に加え、専門科目による区分が存在します。また、試験は大きく2つに分けられ、「1次試験(マーク式試験)」、「2次試験(記述式試験 + 政策試験 + 人物試験)」があります。これらの筆記試験の過去問は人事院に請求することで入手できます。

2015年度の試験から、所持しているTOEFL (iBT)、TOEIC、IELTS、英検のスコアに応じた得点が試験の総得点に加算されるようになりました。例えばTOEICなら600点以上で15点の追加、730点以上で25点の追加です。詳細は人事院のWebサイトをご確認下さい。

### 1次試験

#### 基礎能力試験

いわゆる教養試験で、大卒40題、院卒は30題です。問題は多岐に渡っており、国語力や英語力、頭の柔らかさ、知識力などが試されます。マーク式です。

#### 専門試験

マーク式で、大卒も院卒も共通の40題です。選択する専門区分によって形式が異なるのでよく確認が必要です。

### 2次試験

#### 専門試験

完全記述式です。基本的には、複数の分野から1~2問選択して回答します。理工系においては専用の参考書などはあまりないので、大学の定期試験、院試、過去問や専門書による勉強が中心となるようです。

#### 政策論文(大卒程度)

専門試験と同じ日に行われる試験です。出題されたテーマに対し、与えられた3つの資料を使いながら、A4裏表1枚に自分の考えをまとめていきます。配布資料は文章とグラフの両方が与えられ、英語の資料が用いられる場合もあります。

#### 政策課題討議(院卒者)

専門試験とは別の日に行われる試験です。配布される和文・英文の資料に目を通し、自分の意見などを加えた討論用のレジュメを作成します。グループ全員にレジュメを配布し、意見発表、集団討論、もう一度発表、という手順で行います。

#### 人事院面接

当日までに面接カードを記入して、基本的にその内容に沿って質問される個人面接です。面接時間はおよそ10~20分程度で、面接官は3人です。

### 官庁訪問

#### 官庁訪問

見事2次試験を合格し、最終合格した人は採用名簿に掲載され、官庁訪問を受けることが可能になります! 最終合格=採用ではなく、採用されるためには官庁訪問で各府省から個別に内定を貰う必要があります。

名簿は3年間有効かつ、技術系区分では既合格者向けに追加で官庁訪問の機会もあるため、少しでも興味があるのなら前年度から積極的に試験を受験することをおすすめします。

官庁訪問の詳細については第3部で説明します。

※2021年度試験は通常通り行われましたが、2020年度大卒程度試験では2次試験の専門試験が、院卒者試験では2次試験の政策課題討議が、新型コロナウイルス感染症の影響により実施されませんでした。また、試験日程も例年と異なっています。内定者の体験記については、これらを踏まえた上で参考にして頂ければと思います。

Go to the next page...

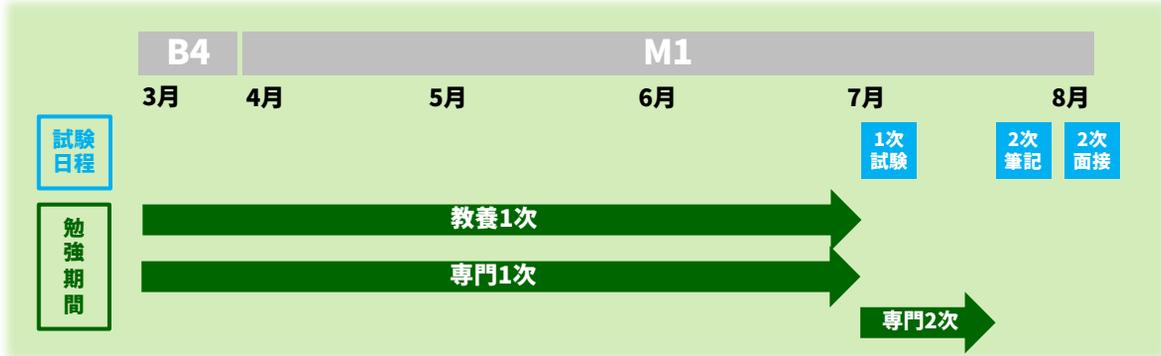
## No.1 桃太郎

区分：数理科学・物理・地球科学（大卒程度）

合格年度：2020年度

大学：岡山県/自然科学研究科 地球科学専攻

## ■ 勉強スケジュール



試験勉強は3月初旬から始めました。7月初旬の試験日までは1次試験、その後は2次試験の対策を行いました。私が受験した年は、コロナ禍の影響で1次試験が数回延期され、2次筆記試験は政策論文のみであったため、十分な勉強時間が確保できました。また、B4でも受験したため（2次試験ボーダーまで2点足りず不合格）、その時の勉強も活きました。よって、上図のスケジュールはあまり参考にしない方が良くかもしれません。

## ■ 各試験の勉強量バランス

教養	専門	論文	面接
20	60	10	10

配点が大きいため、専門に多めに時間をかけました。教養は、必要最低限の点数が取れるようになる程度の時間をかけました。面接、政策論文には、ほとんど時間をかけていません。

## ■ 試験結果

- ・ 席次 中
- ・ 英語加点 あり(15点)

## ■ 利用してよかったもの

- ・ 『速攻の時事』
- ・ 『物理のための数学』

## ■ 各試験の具体的な対策

### 教養1次

過去問を一度解いて、得点源になりそうな部分をピックアップし、集中的に対策しました。時間制約が厳しい試験なので、問題ごとにかかる時間と労力にある程度のメリハリをつけることが、有効な対策方法の1つだと思います。私の場合は、文章理解と判断・数的推理の一部を正確に解けるよう練習し、それ以外の問題は浅く広く対策し、本番でも解答に時間をかけないようにしました。

### 専門1次

#### (物理・地球科学系、古典物理学、地球物理学、地質学)

I部の回答必須問題とII部の選択問題は、確実に得点できるように学部授業の復習と過去問練習を繰り返しました。III部の選択問題は、大抵は自身の専門に関わる問題だけを選択すると指定の25問に満たないので、授業の復習のみでなく、解けそうな分野の問題をピックアップして、参考書や問題集を使って勉強しなければなりません。私の場合は、自身の専門の地球物理学、地質学以外に、古典物理学の問題を解けるように対策しました。

### 専門2次

#### (地球物理学、古典物理学)

合格した年の専門2次はなかったため、参考までにその前年に受験した際に行った試験対策を書きます。専門2次の問題は、2つのみ選択して解答すれば良いですが、どれも難しいので、まずは一番自信のある分野の過去問を完答できるレベルに到達するまで、授業の復習や参考書、問題集を使って勉強しました。後は、次に自信がある分野の過去問の基礎問題が解けるレベルまで、同様に勉強しました。2問を完答しなくても、合格点には十分届きます(私が合格した年の前年は、教養1次のできが悪く、合計点で最終合格をギリギリ逃しました)。

### 政策論文

政策論文は、第1段落に問題提起と自身の主張、第2~4段落にそれぞれ3つの参考資料の要約とそれを踏まえた自身の主張(第1段落の主張の根拠づけ)、第5段落に自身の主張のまとめ、という構成を決めて、過去問で時間内に指定字数の8割以上を書き切る練習をしました。特に、必ず3つの資料全てを要約し、自身の主張に反映させることを意識しました。具体的な政策や時事に関する勉強はしていません。

### 人事院面接

面接カードの添削や面接練習を、大学の公務員講座の講師にしてもらいました。人にしてもらい、感想をもらうのが目的なので、就活中の友達同士などでも大丈夫だと思います。入退室のマナーは、本などで一度確認しておくとも良いかもしれません。

# No.2 将棋

区分：工学（大卒程度）

合格年度：2020年度

大学：千葉県/新領域創成科学研究科

環境システム学専攻

## ■ 勉強スケジュール



私は学部の卒業研究が終わった直後から、試験勉強を開始しました。（私が受けた年度はコロナによって試験時期が例年より遅れ、専門の2次試験も無くなった為、勉強期間・勉強範囲も例外的なので、あまり参考にならないかもしれませんが）最初に過去問を解いてみて、自分の学力と合格点の差を認識することが重要だと思います。また、試験本番までに過去問を定期的に復習してみると、自分の得意 / 不得意（何周しても正解 / 不正解する問題）が分かってくるので、後半は不得意な問題を重点的に、効率よく復習したことが良かったと思います。

## ■ 各試験の勉強量バランス

教養	専門	論文	面接
30	50	10	10

教養と専門は配点比率に沿うように、時間配分して勉強しました。2次試験の論文と面接は1次試験が終わってから、それぞれ対策の時間を確保していました。

## ■ 試験結果

- ・ 席次 上
- ・ 英語加点 なし

## ■ 利用してよかったもの

- ・ 過去問の本（総合職教養・工学に関する基礎・土木）
- ・ 『工学の基礎 攻略問題集』
- ・ 『土木職公務員試験 必修科目編・選択科目編』

## ■ 各試験の具体的な対策

### 教養1次

過去問を中心に勉強しました。最新の年度から5年分くらいの過去問『国家総合職 教養試験 過去問500』を本番の時間内で解いていました。時間配分に関しては、知識分野を短時間で解答し、数的処理や文章理解などの知能分野に多くの時間を使うように意識していました。その後、試験本番までに3周ほど定期的に復習しました。また、出題数が多い数的処理や文章理解、時事については、個別に参考書や問題集を使用して勉強しました。知識分野の中でも不得意な科目は捨て科目にしました。

### 専門1次

#### (技術論、構造力学(土木)・土木材料・土木施工、土質力学・水理学、環境工学(土木)・衛生工学、土木計画、建築史・都市計画)

工学に関する基礎も同様に過去問『公務員試験技術系過去問 工学に関する基礎』を中心に、5年分くらい解き、3周ほど定期的に復習しました。また、問題集『工学の基礎 攻略問題集』も並行して3周くらい解きました。

選択科目について、構造力学(土木)・土木材料・土木施工、土質力学・水理学、環境工学(土木)・衛生工学、土木計画の4科目は過去問『公務員試験技術系過去問 土木』を中心に、5年分くらい解き、3周ほど定期的に復習しました。技術論と建築史・都市計画の2科目は、インターネットや参考書を利用し、実際の過去問を解いてました。また、問題集『土木職公務員試験 必修科目編・選択科目編』を並行して3周くらい解きました。

### 専門2次

#### (構造力学(土木)、土質力学、環境工学(土木)・衛生工学)

私が受験した年は実施されませんでした。構造力学(土木)、土質力学、環境工学(土木)・衛生工学の3科目を勉強し、当日の問題を見て2科目を選ぶ予定でした。専門1次の勉強が専門2次の勉強も兼ねていると思います。専門1次の勉強に加えて、専門2次の過去問を解いたり、専門2次で扱う科目の勉強量を多めにしました。

### 政策論文

5年分の政策論文の過去問を解答時間内に書いてました。論文の書き方は参考書『寺本康之の小論文バイブル』『小論文のオキテ55』『落とされない小論文』にて学びました。また、国家総合職の問題は、資料が複数記載されているので、設問に対して、一から考えるのではなく、資料の情報を上手く活用しながら、文章の構成を組み立てていくことが大切だと思います。

### 人事院面接

面接カードの作成と質疑対応の対策は参考書『受験ジャーナル面接完全攻略ブック』を基に行いました。面接練習に関しては、友達に協力してもらって意見を聞いたり、動画を撮って客観的に観察したりして、良い印象になるように姿勢や目線、声のトーンなどを修正していました。

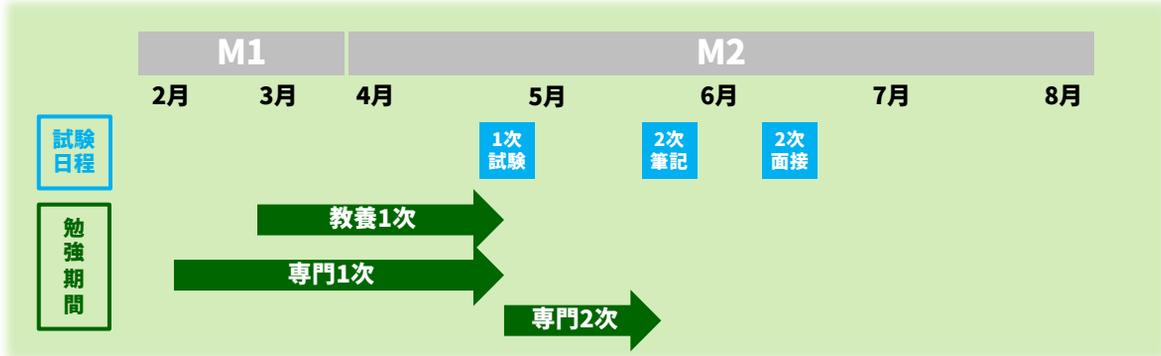
## No.3 ぽんだ

区分：工学（院卒者）

合格年度：2019、2021年度

大学：京都府/工学研究科 都市環境工学専攻

## ■ 勉強スケジュール



総合職試験は2019年度(B4)と2021年度(M2)の2回受験しましたが、上記はM2のときのものです。B4のときは教養1次の勉強を10月から学内講座で行い、1月からは教養・専門ともに参考書を用いてより本格的な勉強を始めました。一方、M2のときは研究室との兼ね合いで3月までまとまった時間がとれなかったため、専門1次の勉強を2月からスキマ時間に行い、本格的な勉強は3月から開始しました。ただ、民間就活や学会準備等があって、4・5月にあまり時間がとれなかったのもう少し早くから勉強しておけばよかった…と思います。

## ■ 各試験の勉強量バランス

教養	専門	面接
20	70	10

B4時の受験で専門試験があまり解けなかったこともあり、配点割合の高い専門試験の対策を重点的に行いました。教養試験の数的処理は慣れが必要だと考えたので毎日時間をとって過去問を解く時間を作っていましたが、基本的には専門試験の勉強をしていました。政策討議の対策はせず、面接試験は民間就活や官庁訪問の対策をしていたのであまり多く時間はとりませんでした。

## ■ 試験結果

- ・ 席次 上
- ・ 英語加点 あり(25点)

## ■ 利用してよかったもの

- ・ 『国家総合職 教養試験 過去問500』
- ・ 『公務員試験 技術系 過去問』

## ■ 各試験の具体的な対策

### 教養1次

一番苦手だった数的処理を中心に勉強しました。制限時間を決めて毎日数的処理の過去問をいくつか解き、出来るだけ多くの問題パターンに慣れるようにしました。本番では一つの問題にこだわりすぎるのは危険だと思ったので一問当たりの上限時間を決め、それを超えた場合は次の問題に進むようにしていました。時事問題等の知識を問う問題の対策は基本的にしませんでした。

### 専門1次

#### （基礎化学、流体力学 [機械系]、環境工学（土木）・衛生工学、原子力工学（原子核・放射線））

専攻している環境・衛生工学は、授業で使った教科書を中心に知識を整理しました。流体力学や原子力工学は大学の図書館で本を借りて、原理や法則が導き出される過程についても勉強しました。その後、参考書や問題集を解くことで出来るだけ多くのパターンの問題が解けるように対策をしました。何が問われている問題なのかを意識することで点が取れるようになったと思います。

### 専門2次

#### （流体力学 [機械系]、環境工学（土木）・衛生工学）

1次試験と同様に過去問や図書館の教科書を使って勉強しました。1次試験と違い導出過程を答えるような問題もあるので、過去問を解いているときも丁寧に数式展開を行うよう心掛けました。また環境工学は時事問題が関連する問題もあったので、意識的に環境関連のニュースを見るようにしていました。

### 政策討議

政策討議の対策はしませんでした。レジュメ作成時には、読みやすい字で書くこと（他の受験者も見るとため）、出来るだけ簡潔に書くことを心掛けました。

### 人事院面接

春季の官庁訪問後に受けたので、官庁訪問シートに書いた内容を面接カードにも書きました。環境省の志望理由だけでなく国家公務員の志望理由をきちんと答えられるように準備しました。当日は聞かれたことに対応する形で答えることを意識しました。

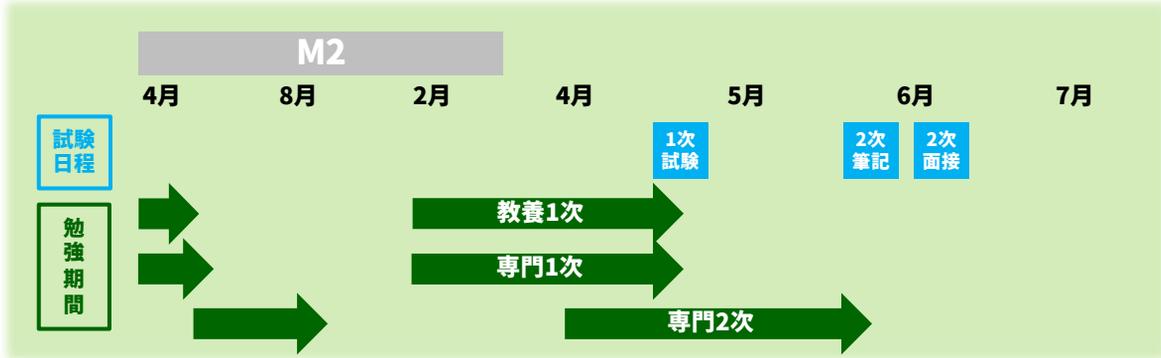
## No.4 すま

区分：数理科学・物理・地球科学（院卒者）

合格年度：2021年度

大学：東京都/理学部 地球惑星物理学科

## ■ 勉強スケジュール



M2の春に公務員試験受験を思い立ち、4月～8月の試験日（コロナの影響により、延期されました）まで勉強したのですが、2次試験で落ちてしまいました。その後は修士論文の執筆に集中したのち、卒業後に公務員試験の勉強に専念することで、無事合格をいただくことができました。対策としては、過去問を解くのが一番良いと思います。

## ■ 各試験の勉強量バランス

<b>教養</b> 50	<b>専門</b> 45	<b>面接</b> 5
-----------------	-----------------	----------------

面接（+政策討論）は2次の筆記試験終了後に対策をはじめました。

## ■ 試験結果

- ・ 席次 中
- ・ 英語加点 あり（25点）

## ■ 利用してよかったもの

- ・ 過去問
- ・ センター試験 現代社会の参考書

## ■ 各試験の具体的な対策

### 教養1次

一度目の受験時は、最初過去問を解いた際、勉強して点数が伸ばせると感じなかったため、直前に英文読解の問題で英語に慣れたり、時間を計って過去問を解いたりして、本番時に焦らないように対策するのみでした。

二年目は対策する時間があったため、『速攻の時事』と、センター試験の現代社会の参考書を読みました。

### 専門1次

#### (物理・地球科学系、代数、物理数学、古典物理学、現代物理学)

数理科学・物理・地球科学では、数学・情報・物理・地学分野115問から40問を選んで解けるので、自分の専攻外も幅広く勉強し、各分野の簡単な問題を選んで解けるようにしていました。

本番では、時間配分を間違え、失敗してしまいましたが…(/\_;)

### 専門2次

#### (現代物理学(量子力学)、地質学)

1次と同じく、物理で苦手な分野が出たときのために、地学や数学も少し勉強していました。本番は物理分野から一問、地学分野から一問選んで解きました。物理分野ですが、量子力学が得意な筈が、問題の難易度が高く非常に苦戦しました。院試の内容を覚えているうちに受験するか、ほかの分野も念のため勉強しておくことをお勧めします。(不合格の年は、量子力学の散乱の問題が出て、院試より難しくない?と、愚痴っていました。)

### 政策討議

2次試験(筆記)が終わった後、就活生が集まってグループディスカッション相手を募集しているライングループに入り、毎日練習していました。公務員試験の形式のディスカッションがしたく、自分が主催して、「研究への支援は選択と集中が良いのか、幅広い分配の方がよいのか」などのお題で、資料を読んだ後に討論する形式でやってもらっていました。

### 人事院面接

親に模擬面接をしてもらいました。

志望カードも見てもらい、冗長な部分を消し嫌味にならないようアピールポイントを詰め込むことをめざしましたが、評価がよかった一番の要因は、印刷した原稿をトレスしてきれいな文字で書こうと頑張ったことかもしれません。

当日は、拍子抜けするくらい普通のことしか聞かれませんでした。

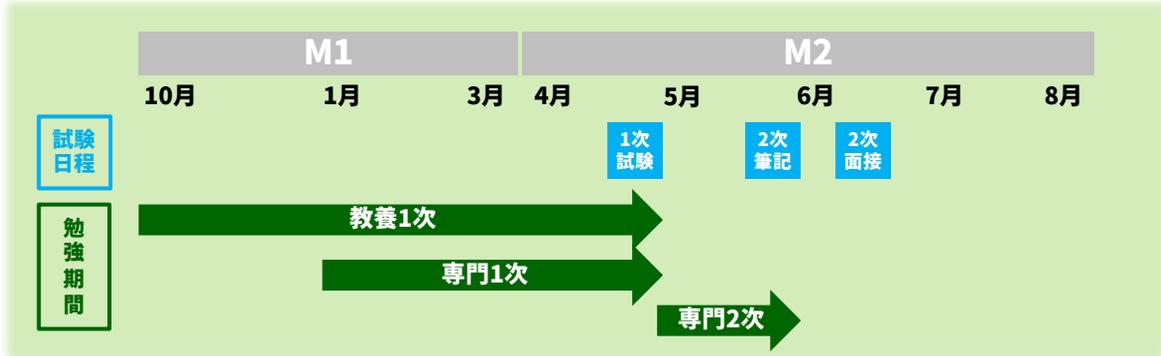
## No.5 うめ

区分：化学・生物・薬学（院卒者）

合格年度：2021年度

大学：東京都/医歯学総合研究科

## ■ 勉強スケジュール



M1の10月に勉強を始め、教養のテキストから手をつけました。専門も早々にテキストや過去問は揃えていましたが、結局始めたのはM1の3月頃からでした。試験直前の4月は専門1次の勉強に必死で、夜まで研究室に残り、勉強していました。専門2次は1次が終わるまでほとんど手がつけられなかったのですが、並行してやればよかったと後悔しました。

## ■ 各試験の勉強量バランス

教養	専門	討議	面接
30	50	10	10

教養も専門も不安要素が多かったので、どちらも同じくらい力を注ぎたかったのですが、実際はこのようなバランスだったと思います。教養は問題演習を重ねるうちに形式に慣れることができたので、その後専門に手をつけました。試験直前は専門の過去問をひたすら解いてました。討議と面接は2次が終わった後に少し対策しました。

## ■ 試験結果

- ・ 席次 下
- ・ 英語加点 あり(25点)

## ■ 利用してよかったもの

(教養)

- ・ 『スーパー過去問ゼミ 文章理解、数的処理、判断推理、自然科学』

(専門)

- ・ 人事院過去問・『薬剤師 新国試がわかる本 薬理』・『コア生化学』・『シンプル生理学』

## ■ 各試験の具体的な対策

### 教養1次

『スーパー過去問ゼミ』を2周した後、過去問集を時間を測りながら解いていました。数的処理や判断推理、資料解釈は特に問題形式に慣れ、解くスピードをアップすることが重要だと思うので、演習を繰り返していました。文章理解は1回に1年分を解き切って、集中力と読むスピードを鍛えていました。自然科学は『スーパー過去問ゼミ』を1周しましたが、社会は特に対策をしませんでした。時事問題は速攻の時事を読みました。(一般職の方で役に立った気がします。) 面接でも気になるニュースを聞かれることがあるので新聞を日頃から読むことも大事だと思います。

### 専門1次

#### (薬理学、生化学・分子生物学、応用微生物学・生物工学、発生生理学・生理学、遺伝学・進化学、生態学)

いずれの科目も基本的に人事院から取り寄せた過去問を用いていました。過去6年分の問題をノートにまとめて、周辺知識を書き込むといった形で行っていました。薬理学は薬剤師の過去問集、生化学はコア生化学、遺伝学は遺伝学の基礎、生態学は高校の時の教科書をそれぞれ参考書にしていました。化生薬は過去問の解説をまとめたサイトがあったので、わからない問題はそちらを参考にしていました。

### 専門2次

#### (生理学、生化学)

1次試験が終わった後に対策を始めて時間がなかったので、ほとんど生理学の対策に充てていました。(生化学は捨て気味…) 生理学の対策としては、『シンプル生理学』の内容を理解し、暗記して臨みました。過去問を確認した際、自律神経系の受容体の機序が頻出だったので、特に復習しました。(受けた試験にも実際に出ました。)

### 政策討議

新聞の中からテーマとなりそうな記事を資料にして、友人と実際の政策討議試験の流れに沿って練習を行いました。レジュメの書き方を決めて、毎回同じように書くことで、本番も焦らず書くことができたと思います。

### 人事院面接

面接カードを基に質問されると聞いていたので、カードに書いたことは関連のエピソードを話せるようにまとめていました。民間就活をしておらず、就活での面接は初めてだったので、家族に協力してもらい練習しました。

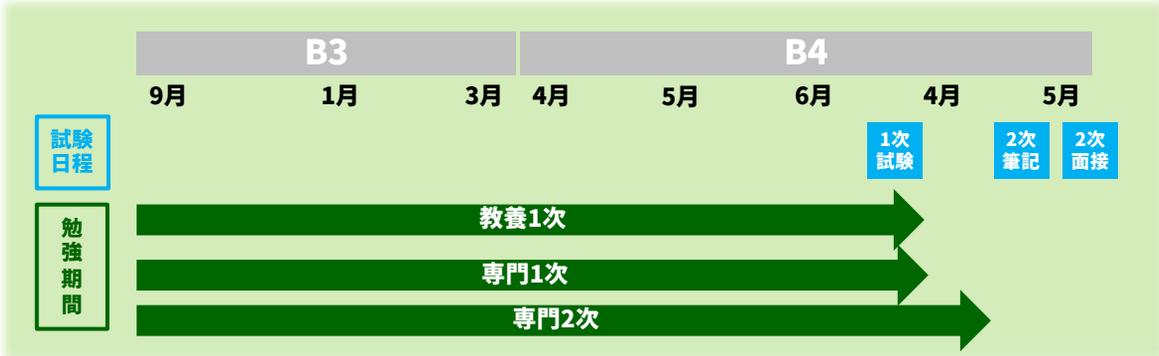
## No.6 みんな

区分：工学（大卒程度）

合格年度：2021年度

大学：宮城県/工学部 機械知能航空工学科

## ■ 勉強スケジュール



省庁のインターンに参加してから、試験について意識するようになり、勉強を少しずつ開始しました。本格的に始めたのは3年の1月くらいからです。コロナの影響で授業や研究が忙しくなかったため、比較的勉強時間が取れましたがそうでない人は、早めに対策を始めた方がいいかもしれません。専門1次は表面的な知識で対応できないので教科書ベースでの見直しが必要です。

## ■ 各試験の勉強量バランス

教養	専門	論文
15	80	5

圧倒的に専門の配分が高いことから、ほとんど専門の勉強に費やしました。専門1次と2次は3月頃までは半々でやっていました。専門1次の工学は選ぶ科目で難易度が大きく変わるので、先に過去問を見てから勉強を始めることを勧めます。面接は誰がやっても評価が変わらないという噂を聞いていたので、一切対策をせず望みましたが全く問題ありませんでした。

## ■ 試験結果

- ・ 席次 上
- ・ 英語加点 あり(25点)

## ■ 利用してよかったもの

- ・ 過去問(総合職)
- ・ 『技術系公務員試験 工学の基礎』
- ・ 『機械系四力問題精選』

## ■ 各試験の具体的な対策

### 教養1次

作戦としては現代文(英語)でほぼ満点(10/11)、数的処理で6割程度(10/16)、知識分野で4割程度(5/13)これくらいをめざしていました。知識分野は時事と理科系の科目に絞って、あとは中田敦彦の動画で適当に教養を補っていました。ほとんど数的処理の勉強の時間に充てて、早く解けるように訓練しました。現代文は満点が取れる科目なので落としてはいけません。

### 専門1次

#### (電磁気学、機械力学、流体力学 [機械系]、材料力学 [機械系]、熱力学・熱機関 [機械系])

機械系なので4力と電磁気を取りました。電気分野が簡単な印象がありました。最初の工学の基礎が比較的簡単なので、9割程度を目指しました。後半の専門科目は6科目まで選べるのでとにかく簡単そうなものを選ぶことで得点を稼げます。自分の専門以外でも目を向けることを勧めます。いくつか専門1次用の参考書があったのでそちらを中心に勉強していました。

### 専門2次

#### (機械力学、熱力学・熱機関 [機械系])

基本的には『機械系四力問題精選』で勉強していました。表面的な知識では太刀打ちできないので教科書を読み込み、数式、物理式の意味をしっかりと理解するように努めました。2科目選択ですが、科目を絞っているとときどき異常に難しい問題が出題されるときがあるので、余裕のある方は3科目程度勉強していくと緊急事態にも対応できると思います。半分取れば大丈夫です。自分はもう少し応用の問題を解いておけばよかったと思ったので院試の過去問を使うのもよいと思います。

### 政策論文

政策提言をするような学生団体で活動していたので、特段特別な対策はしませんでした。4月に入ってから過去問を数年分と模擬試験を受けました。論文の添削はなかなかしてもらえないので、模擬試験は有効活用することを勧めます。論文なので、優れた意見というよりも論理的であることと提示されたグラフなどを正確に読み取るという理系なら必ず通る道が重要視されているような気がします。

### 人事院面接

民間の就活をしていたので、特に人事院用に面接対策は行いませんでした。普通に就活をしていたら必ず通る学生時代に力を入れていたことや志望動機が固まっていれば問題ありません。受けた周りの人はみんな同じ評価だったので、無難に答えることができればOKです。

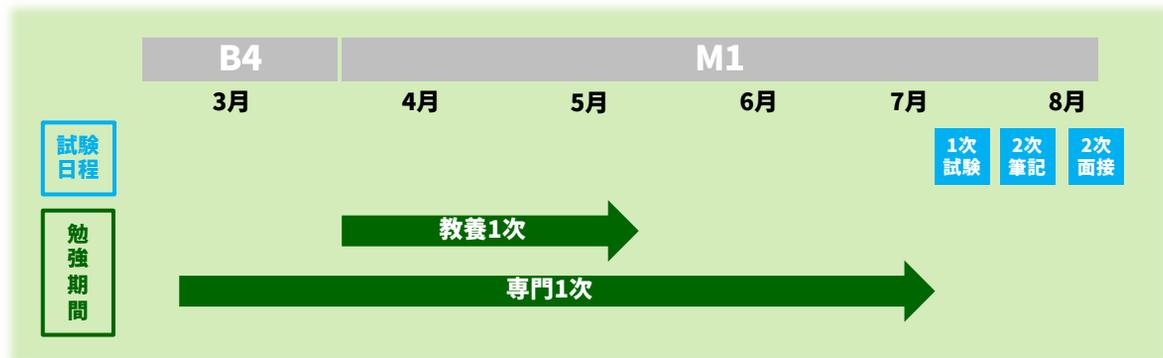
## No.7 尺八

区分：化学・生物・薬学（大卒程度）

合格年度：2020年度

大学：東京都/農学府 農学専攻

## ■ 勉強スケジュール



私が合格した年の試験では2次の専門筆記試験がなかったため、専門1次の対策を中心に行っていました。学部3年のころから勉強をはじめ、学部4年時に試験を受けましたが不合格となり、修士1年時にやっと合格できたというところです。学部4年の3月くらいから、学部3～4年時にした勉強の復習を主に行っていました。

## ■ 各試験の勉強量バランス

教養	専門	論文	面接
15	60	5	20

私はとにかく専門科目の基礎知識が不足していたので、その勉強を中心に行いました。面接も不安だったので、学校の就職相談室で面接練習をさせていただき、緊張で何も話せないなんてことがないように対策しました。

## ■ 試験結果

- ・ 席次 下
- ・ 英語加点 なし

## ■ 利用してよかったもの

- ・ 過去問（総合職・一般職）
- ・ 『スーパー過去問ゼミ 化学』

## ■ 各試験の具体的な対策

### 教養1次

過去問を解いたところ、時間さえかければ正解できる問題が多いと感じる一方、制限時間が短く最後まで解ききれないことが多かったです。そのため、過去問を数年分解き、時間配分の感覚をつかむということを中心に行いました。

### 専門1次

**(数学・物理、基礎物理化学・基礎無機化学、物理化学・無機化学、有機化学、工業化学・化学工学、土壌肥料学・環境科学・農薬)**

まず大学の講義で使った教科書を見直して基礎知識の復習をしました。教科書に掲載されている演習問題等を解けるようになってから、過去問やスーパー過去問ゼミの問題も解けるか確認し、まだ理解不足な分野があったら教科書に戻るということを繰り返していました。

### 専門2次

**(物理化学、無機化学)**

私が合格した年の試験では専門2次がなかったのですが、一応私の勉強内容を記載します。基本的には専門1次と一緒にです。過去問を解き、わからない分野があれば教科書に戻るということをしていました。ですが、私はこの勉強だけでは不合格となってしまいました。専門2次では、教科書の内容だけでなくその応用まで求められていたため、教科書とはべつの問題集などを購入して勉強しておくべきだったと反省しています。

### 政策論文

特に対策はしていませんでした。わかりやすい文章を書けるようにすることと、日ごろから新聞やニュースなどの情報に触れておくことが大事かなと思います。

### 人事院面接

大学の就職相談室に伺い、面接カードの添削や模擬面接をさせてもらっていました。志望動機や、学生時代の印象深い経験、自分の強み弱みなど、最低限のことを言えるようになれば問題ないと思います。

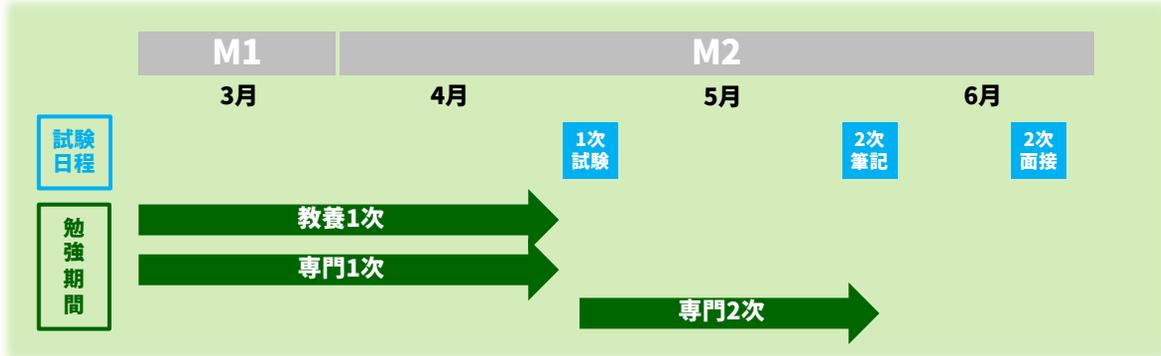
## No.8 みみみ

区分：工学（院卒者）

合格年度：2020, 2021年度

大学：愛知県/工学研究科 土木工学専攻

## ■ 勉強スケジュール



総合職試験は3回（B4:1次合格後辞退、M1:大卒合格、M2:院卒合格）受験していて、これはM2の時のスケジュールです。B4の時は2次試験がTOEICと被り辞退しました。その後院試を経てM1の時の試験で合格することができました。この時はコロナで1次試験が4→7月に延期という異例でしたが、その分勉強できて専門教科をしっかり理解できたと思います。M2の時はできれば1、2月から勉強したかったのですが、研究の都合でできず、3月も民間就活の合間を縫って勉強しました。M1、院試と2回真剣に専門教科を勉強した経験があったのでなんとかかなりましたが、なかなか辛かったです。

## ■ 各試験の勉強量バランス

教養	専門	討議	面接
20	65	5	10

勉強時間のほぼ全てを専門試験の勉強に使っていました。政策討議や面接試験は民間就活や官庁訪問対策が練習になるので、専用の対策はほとんどしていませんでした。

## ■ 試験結果

- ・ 席次 上
- ・ 英語加点 あり(25点)

## ■ 利用してよかったもの

- ・ 『国家総合職教養試験過去問500』
- ・ 専門試験の過去問5年分ほど(大学で保管されていたもの)
- ・ 大学の講義資料
- ・ 土質力学の参考書数冊

## ■ 各試験の具体的な対策

### 教養1次

M1で受験した時は数的処理も少し勉強しましたが、M2の時は英語以外は勉強しませんでした。逆に英語は毎日必ず長文を2題は読むことを決めていました。それ以外の知識問題は得点配分に対し出題範囲が広すぎてコスパが悪いので当日の直感で選ぶと決めていて、勉強しませんでした。得点イメージは国語2~3/3、英語5/5、数的処理6~8/16、その他1~2/6の全体で14~18/30くらいを想定していました。しっかり時間取るなら対策したかったです。

### 専門1次

#### (基礎化学、工学基礎実験、電磁気学、構造力学(土木)・土木材料・土木施工、土質力学・水理学)

工学の必須問題はほぼ全て高校範囲の問題なので、塾講師をやっている経験がとても役に立ちました。選択問題は電磁気学や電気工学に意外と高校知識で解ける問題があるので確認してみるといいです。問題集や参考書を解くのも大事ですが、過去問を何年分も解けない問題が無くなるまでやるのが大事だと思います。得点イメージは必須17~18/20、選択9~12/20の全体で26~30/40でした。

### 専門2次

#### (構造力学(土木)、土質力学)

専門1次と同じで、過去問をやっても解けない問題を講義資料や参考書で復習しました。専門試験は配点が高く、解き方を知らないで解けない問題なのでまとまった勉強が必要でした。大学受験ほどの勉強時間は取れない一方、出題傾向はしっかりあるので、意識は“その教科を理解するために勉強する”ではなく、“試験で点を取れるように勉強をする”でした(傾向と対策)。難易度は院試より少し易しいくらいだと思います。構造力学は8割、土質力学は4~5割を目指しました。

### 政策討議

GDや政策シミュレーションを何度か経験していたので討議の特別な対策はしませんでした。レジュメは①意見②理由と根拠③メリットデメリットを書くように意識しました。論破が目的ではなく、面接と同じで試験官に共に働きたいと思わせるような話し方が大事かと思っています。議論で受け身になると発言が難しいので積極的な意識が大事です。人事院面接もそうですが、官庁訪問対策をしていれば自然と力は付いていると思います。大卒を受験した時の政策論文は予備校の模試の過去問を4回分ほど買って書く練習をしました。

### 人事院面接

訪問カードをしっかり作り、それぞれに対する想定問答集をひたすら作ってそれを口に出して暗記しました。実際はもちろん想定以外のことを聞かれることが多いですが、自分の内容への理解を深める+最低限のお守りを作るイメージでした。M1の時は初めての面接でとても不安だったので就活支援の方などに頼んで何度か練習しました。聞き取りにくい話し方をしない、ふわっとした抽象的な話にしないことが大事だと思います。意外とB評価は取れます。就活、官庁訪問、全てに通じることですが、自信持っていきましょう。

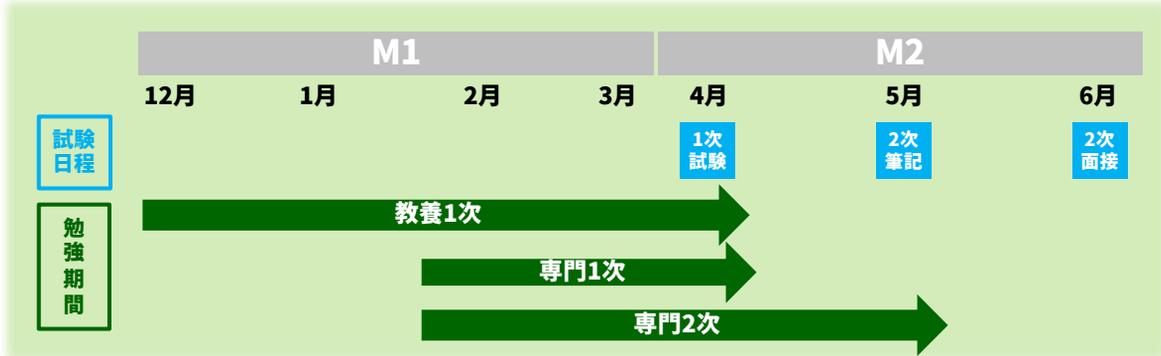
## No.9 くろかん

区分：化学・生物・薬学（院卒者）

合格年度：2021年度

大学：北海道/生命科学院 生命科学専攻

## ■ 勉強スケジュール



12月頃から1日1～2時間ほど教養試験の数的推理と判断推理の勉強に取り組みました。2月からは本格的に専門の勉強も始め、長いと1日10時間以上勉強する日もありました。4月からは併願先の独立行政法人の就活も始まり、公務員試験対策との両立が難しくなる時期もありましたが、隙間の時間で構わないので勉強は継続するよう心掛けました。1次試験終了後に、2次試験の政策討議と人事院面接の対策を行いました。

## ■ 各試験の勉強量バランス

教養	30	専門	60	討議	5	面接	5
----	----	----	----	----	---	----	---

配点の大きい専門試験の対策に多く時間を割きました。特に化学・生物・薬学区分の場合、どうしても選択科目が多くなるので必然的に勉強量が増えると思います。敢えて言うならもう少し専門試験対策の割合を増やしても良かったかもしれません。

## ■ 試験結果

- ・ 席次 上
- ・ 英語加点 あり(25点)

## ■ 利用してよかったもの

- ・ 過去問(9年分)
- ・ 『新スーパー過去問ゼミ 数的推理、判断推理』
- ・ 学部生の時に使っていた教科書、授業プリント
- ・ 高校生の時に使っていた生物の資料集
- ・ 『薬剤師国家試験対策参考書(青本)』

## ■ 各試験の具体的な対策

### 教養1次

数的推理と判断推理の対策は主に『新スーパー過去問ゼミ』を使い、それ以外は過去問を使って勉強しました。私は文章理解・資料解釈と知識問題で得点を稼ぎ、苦手な数的推理と判断推理は簡単な問題で取りこぼさないという作戦で臨みました。教養試験はとにかく時間がないため、過去問を解く際にも5分考えて分からなければ一旦飛ばして次の問題を解くようにしていました。配点はそこまで高くないので、大きく失敗しない程度に得点すれば問題はないと思います。

### 専門1次

#### (有機化学、分析化学・薬化学、生化学・分子生物学、発生生物学・生理学、細胞生物学・放射線生物学、生態学・系統分類学)

過去問を繰り返し解き、全ての問題に対して解説をノートにまとめるという勉強を行いました。解説は学部生で使っていた教科書等で調べ、大学で履修していない発生生物学や生態学・系統分類学は高校生の時に使っていた生物の資料集を参考にしました。また、苦手な分析化学・薬化学は薬剤師国家試験対策の参考書で勉強することもありました。専門1次はかなり細かい知識まで問われることもありますが、あまり気にする必要はないと思います。

### 専門2次

#### (有機化学、薬化学)

過去問演習と『ウォーレン有機化学』の徹底的な読み込みを行いました。専門2次の有機化学・薬化学の問題は大学院入試に比べると少し易しいくらいのレベルです。私は大学でもろに専門としている科目であるためか、本番も自信を持って臨むことが出来ました。専門2次の配点は総合職試験の中で最も高いため、ここで確実に点数を取っておくと安心出来ると思います。

### 政策討議

大学の対策講座を利用しました。政策討議はあくまで人とのコミュニケーション能力をみるための試験だと私は思っています。そのため討議中は自分の意見を述べるのは勿論のこと、発言者の意見をきちんと聞き頷くなど何かしらのリアクションをとる、不明瞭な点はその場で確認する、など普段通りの議論をすることが大切だと思います。レジュメを作成する際は全ての情報は盛り込まず、自分が伝えたいことだけを簡潔にまとめるよう心掛けました。また、他の受験者に読まれるものであるため、大きく丁寧な字で書くことにも注意しました。

### 人事院面接

大学の対策講座は利用しましたが、それ以上に併願先の独立行政法人での面接が一番の対策になりました。学生時代に力を入れたことや志望動機を分かりやすく簡潔に相手に伝えるのは意外と難しいものです。私は周りの友人と面接練習を繰り返し行いました。人事院面接は基本的に面接カードに沿って行われるので、落ち着いて臨めば問題ないと思います。それと面接では笑顔が案外大事だったりするかもしれません。。。